



耳鼻咽喉科の先駆・権威者 **久保 猪之吉** (1874~1939)

わが国最初の耳鼻咽喉科講座を開設し、「イノ・クボ」の名で世界に知られたのが、久保猪之吉です。

明治7年(1874年)、旧二本松藩士・久保常保の子として出生。いつも背中に幼い弟を背負い、手には教科書と紙片、そして短くなった鉛筆を持ち勉強に励んだといひます。中学校進学に際しては、貧しい家庭事情から、不合格の場合は酒屋の丁稚奉公が条件でした。ところが小学校には英語の科目がなかったため、他教科は満点にもかかわらず、英語が極端に悪く、入学判定会議で不合格。しかし、一人の先生が事情を察し、将来性を強く主張したことから、土壇場で救われたのでした。

安積中、一高、東京帝国大学医科大学に進み、卒業の翌年には、助手に任命され、その後、耳鼻咽喉科学研究のため、ドイツ留学を命じられました。

帰国後、京都帝国大学福岡医科大学(のちの九州帝国大学医科大学)教授に任ぜられ、医学博士の学位を取得。そして、わが国最初の耳鼻咽喉科講座を開設し、専任教授となり指導に当たりました。

ある時、老齢で耳が遠くなった自由党総裁の板垣退助が診療を受けるため来院。診察を終えた久保は開口一番に「この耳はもうダメだなあ。年が年だから」と言うと板垣は大きな声で「バカを言うな。俺には昨年子どもができた。まだ若い」と反発。すかさず「それは、最後に老化するところだ」と突っぱねたところ、板垣は「う〜む」とうなただけで引き上げ、周囲からは「さすが、イノ・クボ」と笑いが起こったといひます。

欧米各国の学会で研究発表を精力的に行い、国際的耳鼻咽喉科の権威者として称賛されました。昭和3年(1928年)には、月刊専門誌として『耳鼻咽喉科』を発刊し、研究発表の場を提供。コペンハーゲンで開催された第1回国際耳鼻咽喉科学会に日本代表として出席しています。

一方、文学面でも明治30年代から短歌を志し、また、大正末年からは俳句を始め、句集『春潮集』を出版しています。さらに、蝶や高山植物の研究家としても高名でした。

昭和14年(1939年)11月12日に東京麻布の自宅で病没、享年65歳。“わが生の行路新たなり草紅葉”大学退官に際しての詠歌です。



二本松ふるさと人物史
二本松市ウェブサイト

二本松警察署からのお知らせ

犯罪発生状況(令和5年1月)

	二本松地区	安達地区	岩代地区	東和地区	不明等	合計	前年対比
侵入盗							-1
空き巣							
出店荒し							
その他	1					1	1
非侵入盗		1				1	1
万引き							
車上ねらい							
その他		1				1	
自転車盗	2	1				3	3
器物損壊							
住居侵入							
その他	4	1			1	6	4
合計	7	4			1	12	8
前年対比	4	3			1	8	



地域で子供の見守りを!!
日常生活の中、気軽にできる
「ながら見守り」活動の
協力をお願いします。



STOP! なりすまし詐欺



POLICEメールふしめ

- 犯罪発生情報・防犯情報
- 交通安全情報
- 警察からのお知らせを警察から発信します。まだ登録していない方は是非登録をお願いします。

登録専用アドレス(QRコード、または
pmf01@uh28.asp.cuenote.jp)
に空メールを送信してください。



二本松警察署電話 23-1212